

平成30年教育委員会 第7回定例会

- 1 日 時 平成30年7月26日(木) 13時30分開会 16時23分開会
(休憩 14時43分～15時32分)
- 2 場 所 教育委員会庁舎3階 第1会議室
- 3 出席委員 教育長 林 秀 樹
教育委員 笹 谷 純 代
教育委員 小 澤 倭文夫
教育委員 荒 田 純 司
教育委員 常 見 幸 司
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席職員 教育部長 飯 田 敬
教育部次長 須 藤 慶 子
教育部市立学校適正配置担当次長 石 崎 政 嗣
学校教育支援室長 中 島 正 人
学校教育支援室主幹(指導担当) 大 山 倫 生
学校教育支援室主幹(学務担当) 成 田 和 陽
学校教育支援室主幹(市立学校適正配置担当) 佐々木 雅 一
教育総務課長 笹 山 貴 史
施設管理課長 伊 藤 雅 浩
学校給食センター副所長 作 田 敏 春
生涯学習課長 海 谷 昌 弘
図書館副館長 石 塚 則 子
総合博物館副館長 東 山 一 成
美術館副館長 小 林 由美子
教育総務課総務係長 安 藤 英 明
生涯スポーツ課生涯スポーツグループ主査 古 川 洋 一
教育総務課総務係 会 沢 秀 紀
教科用図書調査委員会「特別の教科 道徳」小委員長(銭函中学校長) 法 本 明 洋
教科用図書調査委員会「特別支援教育」小委員長(松ヶ枝中学校長) 黒 川 裕 之
- 6 傍 聴 人 なし
- 7 議 題

- 議案第1号 博物館協議会委員の任命案
協議第1号 平成30年度教育委員会の事務の点検及び評価及び報告書案について
協議第2号 平成30年度教育費補正予算について
協議第3号 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について
報告第1号 アイアンホース号の修繕の経過及びクラウドファンディングについて
報告第2号 平成31年度使用小樽市中学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書の答申について
報告第3号 平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
その他 ・市議会第2回定例会について
・寄附採納について

8 議 事

林教育長 ただいまから、教育委員会第7回定例会を開会いたします。
本日の会議の議事録署名委員に、常見幸司委員を御指名させていただきます。
はじめにお諮りいたします。協議第2号「平成30年度教育費補正予算について」は会議規則第13条第1項第3号により、協議第3号「平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について」、報告第2号「平成31年度使用小樽市中学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書の答申について」、及び報告第3号「平成30年度全国学力・学習状況調査結果について」は同項第5号により、それぞれ非公開とし、議事録については結果のみ記載することとし、最後に審議していただきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

各委員 (異議なし)

林教育長 それでは、そのように進めさせていただきます。
早速、議事に入ります。議案第1号 博物館協議会委員の任命案につきまして、説明をお願いします。

議案第1号 博物館協議会委員の任命案

総合博物館副館長 議案第1号 博物館協議会委員の任命案について、御説明いたします。
博物館協議会委員は2年の任期となっておりますが、来る8月1日に任期満了となることから、新たに委員を任命するものです。総合博物館条例第7条の規定に基づき、再任する方6名と、博物館の運営に関して深い関心があり、各方面において御活躍され、博物館の将来について活発な御意見を頂戴できる方として新たに2名御依頼し、承諾を得ました。また、一昨年の条例改正により、今回から公募委員1名を選考し、新任、再任合わせて9名の方を任命するものです。
お手元に配布しました資料の2枚目、博物館協議会委員名簿を御覧ください。
新任の方は、お一人目は学識経験者のお立場から御意見をいただくため、小樽商科大学副

学長で商学部経済学科の江頭進様、二人目は学校教育のお立場から御意見をいただく、小樽市立桜町中学校教諭の本庄有希子様です。

公募委員につきましては、資料4枚目「総合博物館協議会公募委員 選考結果について」を御覧ください。6月1日から25日まで博物館協議会委員を市民公募したところ、50代女性1名、50代男性1名、計2名の応募があり、総合博物館協議会委員公募選考要領に基づき、7月6日に選考会を開催し、東詠子氏を公募委員として選考いたしました。東詠子氏は1967年生まれの50歳。長年、お子さんの学校のPTA活動へ積極的に参加されておられました。また、総合博物館のボランティア活動にも参加され、稲垣益穂日誌の翻刻作業にも取り組まれています。選考経過についてですが、御応募いただいた2名の応募論文「私が考える博物館の役割」を、地域性、関心度、公平性、発展性の4項目の選考基準により採点いたしました。応募論文の内容から、東氏が博物館活動に対し深い理解をお持ちであること、博物館に対する新たな提言も記されていることが評価され、結果1位となり、公募委員に決定いたしました。

なお、博物館協議会委員の任期につきましては、平成30年8月2日から平成32年8月1日までの2年間となります。

この9名の委員の任命について、御審議をお願いいたします。以上です。

林教育長 それでは本件につきまして、御意見・御質問等ございましたらお願いいたします。
よろしいでしょうか。

各委員 (異議なし)

林教育長 それでは、本件を了承したいと思います。
続きまして、協議第1号 平成30年度教育委員会の事務の点検及び評価報告書案について、説明をお願いします。

協議第1号 平成30年度教育委員会の事務の点検及び評価報告書案について

教育総務課長 それでは御説明申し上げます。

教育委員会には、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、学識経験者の意見を伺い、その結果を議会に提出するとともに公表することが、平成20年度から義務付けられており、本年度は、平成29年度の事務につきまして、案を作成いたしました。報告書案につきましては、お手元の資料のとおりですが、記載内容が相当多くなっておりますので、本日は全体の構成について、簡単に御説明申し上げます。

表紙をめくっていただき、目次を御覧ください。「はじめに」のあとの2ページから8ページまでは、「点検及び評価の対象」について説明し、合わせて「教育委員会の活動状況」や「総合教育会議の開催状況」について掲載しております。

9ページから35ページまでが、「事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」を13項目に分類して記載しております。これにつきましては、昨年度までは15項目ありましたが、

「児童生徒の保健衛生と安全」と「幼稚園・高校教育への支援」の一部の内容を他の項目に移すことで、2項目の減としています。また、昨年、記載について「どれが取組で、どれが成果なのかわかりづらい」との御指摘をいただいておりますので、記載内容や表現を可能な限り修正しております。さらには、これまでは、各項目の「主な取組と成果」・「今後の取組方向」と「取組の状況」が表と裏になっていましたので、ページを詰めまして、左右見開きとしております。

次に、36ページになりますが、後日いただく予定の「学識経験者の方からの御意見」と、最後に参考法令等を昨年と同様に掲載したいと考えております。

参考としまして、平成28年度の事務に関して、学識経験者からいただいた御意見を受けて、29年度にそれぞれどのように取り組んだのかを一覧にして添付しております。

本日、御協議いただいた上で修正を行ない、学識経験者の御意見を加えた形で、改めて議案として最終的に御審議いただきたいと考えております。また、9月に開会予定の市議会第3回定例会に合わせて議会に提出するとともに、ホームページへの公表も予定しております。

なお、御意見をいただく学識経験者につきましては、今年度も、昨年度に引き続き小樽商科大学の先生と市P連の役員の方をお願いしたいと考えております。

本日は、各担当職員が出席しておりますので、忌憚のない御意見・御質問を賜りますようお願い申し上げます。

以上、御協議の程よろしくお願いいたします。

林教育長 それでは、本件に関しまして、御意見・御質問等ございましたらお願いいたします。

笹谷委員 見開きにしていただきましたので、本当に見やすいものになったなというふうに思います。一点確認したいのですが、「6 生涯学習（の学習機会の提供と社会への活用促進）」の部分の数字なのですが、「延」と付いている人数と付いていない人数とがあるのですが、「延」という文字がない人数は実人数、延べではない、という認識で間違いないでしょうか。

生涯学習課長 今回の御質問があったことについては、「延」が付いている人数について、例えば、教育支援活動推進事業の中段の「おたる地域子ども教室」のところで、延べ人数という形で児童数が記載されております。これについては、延べの人数になっているのですが、それから二つ下の「成人の日記念事業」とあるのですが、こちらは「延」が付いておりませんが、これは実人数、というような分けで考えていただいても構いません。

笹谷委員 では、その間の「わくわく共育ネットワーク」ですとか、「学校支援ボランティア」、この辺りは実人数という認識でよろしいですか。

生涯学習課長 すいません、大変申し訳ございません。こちらの「わくわく共育ネットワーク」の受講者数についてなのですが、厳密に言えば延べ人数になると思われるのですが、基本的にどなたが来られたかっていう特定ができなかったものですので、これは大変申し訳ありませんけど、実人数とさせていただきます。

林教育長 よろしいでしょうか。
わからない場合は、延べでないかな、普通は。

生涯学習課長 そちらのほうに合わせたほうがよろしいですね。

林教育長 延べのほうが、まあ、それぞれの講座でだぶっている人がいないとは言えないところもあるのかもしれませんが、逆もありきなので、押さえてないのだったら、延べにしておいたほうがいいのかもしいですね。

笹谷委員 この表記だと、延べではなく実人数だと思うので、だぶった人はいないカウントで、この人数なのだな、というふうに思うので、正確なところでいくと、「延」が付いたほうがよろしいかなと思います。

林教育長 生涯学習課長、それでよろしいですか。

生涯学習課長 こちらで再度見直して、変更していきたいと思います。

林教育長 それでは見直しを行ってください。ほかにございませんか。

小澤委員 24ページ「8 文化芸術活動の振興」の、「小樽市社会教育推進計画上の位置付け」のところですが、重点2の所は、スポーツ・レクリエーションの「促進」ではなくて、「推進」ではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

それとですね、「6（生涯学習の学習機会の提供と社会への活用促進）」から関わって、今年の社会教育推進計画並びに事業計画を見ましたら、それぞれ観点が設定されていて、例えば今の24ページの重点2には観点が五つあるのですが、それをあたっていきますと、例えば20ページ（「6 生涯学習の学習機会の提供と社会への活用促進」）の所では重点1とあって、このあとに観点が三つ、計画にはあるのですね。それは全部含んでいるから（この報告書には観点を）書かないのかなとも思ったのですが、そのことがひとつと、26ページ（「9 スポーツ・レクリエーション活動の振興」）、観点（4）は正確には「地域の生活環境に即したスポーツ・レクリエーション何々」と（計画では）続いていましたけれども、スペースの関係で省略されたのかなと、そのことが二つ目で、三つ目が観点（6）とそこにあるのですけれども、この観点（6）は社会教育推進計画にはないと思うのですよね。そのところは、（計画に）含まれていないものが（この報告書に）書かれているのかなと。

あと、そのほかにこの推進計画を見ますと、重点2には観点が五つありますけれども、そのうちの「（3）各種文化芸術団体の支援」、それから重点3には観点が三つあるのですが、同じく「（3）各施設にかかわるボランティアの活動の充実」という観点がこの（報告書の）中には（どこのページにも）記されていないように思うのですけれども、特段その辺りのところは、これ（社会教育推進計画に定めた観点）に従って、全て記述していく必要がないの

かどうか、その辺りのところをちょっと聞きたいのですけれども。

林教育長 今の関係で、担当課のほうはいかがですか。特に社会教育推進計画とこの点検評価の整理した項目との整合性について、たくさん項目があがっていますので、どの課というよりも、考え方として何かそういう整理の仕方をしているのか、若しくはそれを、今はその観点を絡めなくて、この（報告書の）ために作ったものなのか、それとも今後こういう計画に合わせて整理していく方向性で進めていくものなのか、そこら辺の考え方をちょっとお話していただませんか。

生涯学習課長 ただ今御指摘のあった、小樽市第6次総合計画の位置付けと小樽市社会教育推進計画の位置付けに関しての重点科目、特に小樽市社会教育推進計画の重点と観点の捉え方の位置付けについて、大変申し訳ございませんけれども、私のほうで全体を見直しさせていただいて、整理させていただきたいと思いますので、時間のほうをいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

小澤委員 はい、結構です。

林教育長 整理の仕方によっては、大幅にここの所が変わる可能性があるのかな。主な取組と成果。

生涯学習課長 基本的には総合計画の位置付けの部分と、あと社会教育推進計画の位置付けの部分とのリンクしている部分がありますので、そんな大きく変わることはないかなと思いますけど、その中で今御指摘のあった、観点が抜け落ちている部分というのもあると思いますので、その辺が加わっていくのかなというふうには捉えております。

林教育長 そういう整理の仕方をするのがいちばんいいとは思いますが、もしその時間的な背景の中で、なかなか整理しきれない部分が出た時にはどういう対応をしますか。

生涯学習課長 整理しきれない部分と、その観点を載せることができないものがもしありましたら、そちらについてはですね、今後、今現在検討している、次期の（社会教育推進）計画の中でちゃんとそういう所は整理できるような形で、計画のほうを作っていくなどとは考えております。

林教育長 計画はそういうふうに見直すにして、今、評価報告書の案件なので、評価報告書は今後どういうふうにするかという、整理の仕方はありますか。つまり、直し切れない部分が出てきた時に、これ（報告書）はこれで計画を作る前に整理をしていかなければならない。それは、今後その計画を打ち出す中で、それに合わせて今後見直していくということなのかな。それに合わせて、評価報告書も今後、計画に合わせて柱立てする方向で評価をしていくという形にしていく方向で、検討するというところでいいですかね。

生涯学習課長　　そうですね、はい。

林教育長　　一応、再度整理してみます。それで、どうしても直せない部分が出てくる場合については、今後の計画に合わせて整理をしていく方向で、検討していくということで進めたいというふうに思います。それでよろしいですか。

小澤委員　　はい。

林教育長　　ほかにございませんか。

小澤委員　　多分、今の、重点2の観点（3）と重点3の観点（3）とは、この（報告書の）中には包括されているというふうには、読んでみて感じました。

20ページ（「6 生涯学習の学習機会の提供と社会への活用促進」）のところなのですが、「主な取組と成果」の2（1）のところを見ると、「教育支援活動推進事業を推進」に①、②、③とあるうちの③なんですけれども、「小樽わくわく共育ネットワーク（家庭教育支援事業）」とあり、それで右ページを見ますと、「小樽わくわく共育ネットワーク」と事業名のところに書かれています。ところが、今年度の（社会教育）事業計画を見ると、その5ページには、この小樽市教育支援活動推進事業という事業名の事業概要の中に、④として「家庭教育支援事業」と記されていて、その内容を見ると、例えば「家庭教育推進チームを中心に家庭教育力の向上に資する何々」と書いてありまして、わくわく共育イベントとかとあるので、家庭教育支援事業の中に小樽わくわく共育ネットワークという事業内容があるのかなと、社会教育事業（計画）を見てそう読んでみたのですが、こちらの点検評価報告の20ページでは、小樽わくわく共育ネットワークが主な事業で、家庭教育支援事業というのは、その事業内容のように感じるのですけれども、こういう評価をする時、この項目のいずれを優先させるべきなのか、ということで、ちょっとこの整合性がいかななものかなと思ったのですが。

生涯学習課長　　今、委員から言われたとおり、確かに家庭教育支援事業というのが母体になりますので、ちょっと表記の方法が誤りかなと思いますので、それについては改めさせていただきたいと思います。確かに、以前、平成27年度についてはですね、家庭教育支援の主な取組となると、わくわく共育ネットワークという形での事業がほぼ大半を占めておりましたので、こういう表記をずっと使わせていただいておりますけれども、近年についてはそれ以外の取組も家庭教育支援の中でやっておりますので、表記方法については、改めたほうがよろしいかなと思いますので、そちらについては改めさせていただきます。

林教育長　　よろしいでしょうか。

小澤委員　　はい。

林教育長　　ほかにございませんか。

この関係で何かお気づきの点あれば、担当一括してお伺いしますのでお話ししていただければと思うのと、あと先ほど言われた整理の仕方ですね、もう一度再点検をしてみたいと思います。本件、よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

林教育長 それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、報告第1号 アイアンホース号の修繕の経過及びクラウドファンディングについて、説明をお願いします。

報告第1号 アイアンホース号の修繕の経過及びクラウドファンディングについて

総合博物館副館長 報告第1号 アイアンホース号の修繕の経過及びクラウドファンディングについて、御説明いたします。

総合博物館の動態保存鉄道でありますアイアンホース号は、昨年10月に故障いたしましたが、修繕が完了し、運行を再開いたしました。

まず、アイアンホース号運行再開までの修繕の経過についてでございます。アイアンホース号は、4月に札幌の工場に搬送し、そこでの解体作業を経て、5月に大阪の工場へボイラー部分だけを搬送しまして、修繕を行いました。そして6月には修繕されたボイラーの使用再開検査を受け合格となり、再び大阪から札幌の工場へ搬送、組立てを経て、7月に小樽へ戻ってまいりました。7月21日には市長並びに教育長に御出席を賜りまして、アイアンホース号運転再開のセレモニー並びに試運転を実施いたしました。そして、昨日の7月25日より通常運行を再開しております。

次に、アイアンホース号のガバメントクラウドファンディングについてでございます。今回の修繕のために、ふるさと納税制度を活用したガバメントクラウドファンディングを実施いたしました。そうしましたところ小樽市民をはじめ全国の方から目標額を超える御支援をいただくことができました。目標額を600万円とじていましたが、7月22日の時点で7,397,748円、寄附件数が343件となっております。ただし、現金を御持参の方や郵便振替の未確認分がございますので、金額・件数につきましては、最終的にはさらにこれより増える見込でございます。

次に資料2枚目でございます。運転再開企画展「蒸気機関車アイアンホース号と旧手宮鉄道施設―動態保存への取組」でございます。運転を再開しましたアイアンホース号の意義や価値を知っていただくために、企画展を今週土曜日の7月28日より本館2階の企画展示室で開催いたします。

また、今年度のアイアンホース号の運行予定ですが、例年通りの博物館の夏期開館終了の11月4日までを予定しております。

報告は以上でございますが、本日夕方のテレビニュースで、今回の修理内容について放送されますので、簡単に御案内いたします。放送されますのは、STV札幌テレビ放送5チャンネル、時間は午後6時15分から7時までの間で、今回の修繕につきまして、札幌の工場

までの搬送から小樽に戻って運転再開までの様子が約8分間の内容で御紹介していただけるようです。御予定が合いましたら御覧いただければと思います。報告は以上です。

林教育長 本件につきまして、御意見・御質問等ございましたらお願いいたします。
放送予定は本日。

総合博物館副館長 本日ですね。

林教育長 本日の18時15分からのSTVですね。

総合博物館副館長 道内ニュースの枠があって、その中で流れるというふうに伺っております。

林教育長 ごさいませんか。よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

林教育長 それでは、本件を終了させていただきます。
それでは、その他の案件でございます。まず、市議会第2回定例会について、説明をお願いいたします。

その他 市議会第2回定例会について

教育部長 小樽市議会第2回定例会につきまして御報告させていただきます。

まず、お手元の資料の表紙をめくっていただき目次を御覧ください。

平成30年第2回定例会は、6月5日に本会議が開催されまして、市長から議案の提案説明がございました。その後、6月11日から6月15日にかけて代表質問及び一般質問、また、6月18日から6月25日にかけて予算特別委員会、6月26日に総務常任委員会、6月27日に学校適正配置等調査特別委員会が開催され、会期を7日延長いたしまして7月2日の本会議をもって終了したところでございます。

以下、教育委員会に係る質疑の概要について報告いたします。

まず、代表質問につきましては、自民党の山田議員から、「教育について」ということで、キッズウィークに関して質問がございました。次に共産党の小貫議員から、「国に対して意見を言える市政への転換を」ということで、小樽海上技術学校の存続に関する質問が、市長と教育委員会にございました。詳細は1ページから3ページのとおりとなっております。

次に、3ページ、無所属議員の質疑及び一般質問につきましては、中村岩雄議員から、「松前神楽について」ということで、松前神楽への支援や道民への周知などに関して質問がございました。

次に、一般質問では、共産党の酒井隆裕議員から、「学校給食について」ということで、学校給食の無償化や助成に関して、また「おいしい給食について」ということで、質問が市長

と教育委員会にございました。詳細は3ページから9ページに記載のとおりです。

次に各委員会の質疑についてですが、まず、予算特別委員会では、3名の委員から御質問がございました。公明党の千葉委員からは、「海上技術学校の存続について」ということで、小樽市が海技教育機構などに示した代替施設案の内容などに関して、次に、共産党の川畑委員からは、「大阪北部地震について」ということで、6月18日に発生した地震を受けた、市内小中学校のブロック塀等の点検調査に関して、次に、共産党の高野委員からは、「勤労青少年ホームのアスベスト問題について」に関連して、学校施設のアスベストの点検に関して、また「放課後児童クラブについて」ということで、児童クラブの利用状況などに関して、それぞれ質問が、市長部局と教育委員会にございました。詳細は10ページから14ページのとおりです。

次に、総務常任委員会ですが、5名の委員から質問がありました。なお、委員会の冒頭、教育委員会からの報告事項はございませんが、総務部より、「新・市民プール、総合体育館等の整備検討の取り組みについて」、「国立小樽海上技術学校の存続に向けた小樽市の方策の提示について」、また、消防本部より「(仮称)消防署手宮支署統合新築事業について」、それぞれ報告がございました。

委員会質疑につきましては、最初に、自民党の濱本委員からは、「海上技術学校の存続について」ということで、商業高校校舎の譲渡に対する北海道や北海道教育委員会との協議に関して、次に、立憲民主党・市民連合の佐々木委員からは、「市長発言と市政への影響について」に関連しまして、生徒指導に関する質問があったほか、「教職員の多忙化解消について」ということで、道教委の「北海道アクション・プラン」と本市の学校における働き方改革に関して、それぞれ質問がございました。

次に、公明党の斉藤委員からは、本定例会にも、前回、前々回と同じ方から「中村善策美術館(仮称)の設立方について」という陳情が提出されたことから、「中村善策記念館について」ということで、中村善策記念ホールの開設経緯のほか、歴史的建造物の活用についてや、単独の美術館とした場合の現有作品の展示の可否などに関して、質問がございました。今回の陳情者の陳情理由ですが、前回の不採択後に議員に対してその理由を聞いたところ、「趣旨は理解できるが小樽市の財政がひっ迫している現状では無理」とのことだったので、新たな美術館を建設するのではなく、歴史的建造物等の活用ができないか検討いただきたい、ということで再度陳情書が提出されたものでございます。

次に、共産党の酒井隆裕委員からは、「新・市民プールについて」ということで、新・市民プールと総合体育館の整備検討の取組に関して、「学校歯科検診について」ということで、歯科検診で要治療とされた子供の医療機関受診などに関して、「海上技術学校について」ということで、商業高校閉校後に山手地区統合中学校と海上技術学校を複合化することなどに関して、次に、無所属の安齋委員からは、「辻立ちについて」に関連して、市長が辻立ちで受けた市民の声を反映した政策の一つとするキャリア教育などに関して、それぞれ質問が、市長部局と教育委員会にございました。以上の詳細は15ページから32ページに記載のとおりでございます。

次に、学校適正配置等調査特別委員会ですが、委員会の冒頭、教育委員会より「学校再編に向けた取組状況について」、「『統合についてのアンケート調査』結果について」、「『小樽市

立小中学校 学校規模・学校配置 適正化基本計画』計画期間前期の点検結果について」の報告を行いました。また、質疑に関しては7名の委員から質問がございました。

まず、自民党の山田委員からは、「海上技術学校について」ということで、北海道への要望活動などに関して、「学校跡利用について」ということで、閉校した学校施設の跡利用状況などに関して、次に、同じく自民党の中村吉宏委員からは、「報告を聞いて」という中で、山の手小学校の通学路の安全などに関して、「中央・山手地区統合中学校と海上技術学校の併設について」ということで、統合中学校と海上技術学校を併設することや北海道との協議を進めることなどに関して、続きまして、立憲民主党・市民連合の高橋龍委員からは、「新設された統合校について」ということで、統合についてのアンケート調査の結果などに関して、「海上技術学校と学校再編について」ということで、海上技術学校と西陵・松ヶ枝中学校の統合校を商業高校跡に併設することなどに関して、「跡利用について」ということで、学校跡利用の進展の有無に関して、次に、公明党の斉藤委員からは、「学校再編に向けた取組状況について」ということで、統合校に対するアンケート調査の今後の予定や統合校と地域の連携などに関して、「北山中学校・末広中学校『統合についてのアンケート調査』結果について」ということで、アンケート調査結果の内容などに関して、次に、同じく公明党の千葉委員からは、「学校の耐震化について」ということで、本市の学校施設の耐震化の状況と新耐震基準を満たしていない学校の対応などに関して、「報告を聞いて」ということで、適正化基本計画の計画期間前期のうち未実施の地域の状況などに関して、次に、共産党の酒井隆裕委員からは、「海上技術学校についてと中央・山手地区統合中学校の再編について」ということで、統合中学校と海上技術学校の複合化などに関して、次に、同じく共産党の新谷委員からは、「北山中学校・末広中学校『統合についてのアンケート調査』結果について」ということで、アンケート調査結果の内容などに関して、『小樽市立小中学校 学校規模・学校配置 適正化基本計画』計画期間前期の点検結果について」ということで、望ましい学校規模などに関して、それぞれ質問が、市長部局と教育委員会にございました。以上の詳細は33ページから54ページに記載のとおりとなっております。

ここで一点訂正をお願いいたします。53ページの質問の欄の上から3行目、二重丸のタイトルで「北陵中学校・末広中学校」となっておりますが、正しくは「北山中学校・末広中学校」ですので、訂正をよろしくをお願いいたします。

報告は、以上でございます。

林教育長 ただいまの報告に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

林教育長 それでは、本件を終了させていただきます。
続きまして、その他の案件ですが、寄附採納について説明をお願いします。

その他 寄附採納について

教育総務課長 寄附が3件ございましたので、御報告いたします。

1件目は、北海道信用金庫緑支店様から、山の手小学校に対し、同校の開校祝いとして、児童用図書4冊、2万9,376円相当を御寄贈いただいたものであります。

2件目は、松崎久美恵様から、図書館に対し、図書237冊、30万円相当を頂いたものでございます。松崎様は、現在東京在住ですが、この度、亡き夫の法要のために来樽された際、ふるさと小樽の子供たちのために役立ててほしいとの意向で、絵本や読み物などの児童書を中心とした図書を頂いたものであります。

3件目は、匿名の方から、生涯学習プラザ・レピオに対し、キッズスペースに配置する木製の玩具等、11万8,962円相当を頂いたものであります。

続きまして、参考といたしまして、直接教育委員会が頂いたものではありませんが、アイアンホース号修復のためのクラウドファンディングによる寄附として、三立機電株式会社様から同社の創業70周年の記念として70万円を頂いております。なお、クラウドファンディングの実施状況につきましては、先ほどの報告第1号のとおりであります。

報告は以上でございます。

林教育長 本件に関して御意見・御質問等ございましたらお願いいたします。
よろしいでしょうか。

各委員 (なし)

林教育長 それでは、本件を終了させていただきます。
それでは、ただいまから非公開の審議に入りますので、報道関係者及び傍聴者の皆様は御退席をお願いいたします。

<非公開の審議開始>

協議第2号 平成30年度教育費補正予算について

教育総務課長から、平成30年度教育費補正予算について説明し、全委員一致により決定した。

報告第3号 平成30年度全国学力・学習状況調査結果について

学校教育支援室主幹（指導担当）から、平成30年度全国学力・学習状況調査結果について説明し、常見委員から質問が、林教育長から意見があったほか、全委員が了承した。

協議第3号 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について

学校教育支援室主幹（指導担当）から、平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について説明し、林教育長、笹谷委員から質問が、笹谷委員から意見があったほか、全委員が了承した。

< 暫時休憩 >

報告第2号 平成31年度使用小樽市中学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書の答申について

学校教育支援室主幹（指導担当）、教科用図書調査委員会「特別の教科 道徳」小委員長及び同委員会「特別支援教育」小委員長から、平成31年度使用小樽市小学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書の答申について説明し、荒田委員から質問があったほか、全委員が了承した。

< 非公開の審議終了 >

林教育長 以上をもちまして、教育委員会第7回定例会を終了いたします。